

# 令和3年度 兵庫県立大学環境人間学部入学試験

学校推薦型選抜

帰国生特別選抜

小論文(120分)

問題冊子

## 全般的な注意事項

- 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見ないこと。
- 試験開始後直ちに、表紙を入れて、問題冊子(8枚)および解答冊子(8枚)があることを確認すること。
- 試験中に問題冊子および解答冊子のページ落丁・乱丁、印刷不鮮明、汚れなどに気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 解答は、必ず該当する問題解答用紙の所定欄に記入すること。
- 試験終了後、問題冊子は持ち帰ること。

## 必須問題および選択問題についての注意事項

- 問題は次のとおり、必須問題1題と選択問題2題の合計3題からなっている。

必須問題 I	(1題)
選択問題 II、III	(2題)
- 選択問題は、2題の中から1題を選択すること。なお、選択問題を2題とも解答した場合には、全て採点されないので注意すること。

I (必須) 次の英文を読み、問い合わせに答えなさい。

Living in Florida is full of surprises – and amazing wildlife! I got very excited recently when I discovered \*Audubon's Corkscrew Swamp Sanctuary is located just a few miles from my home.

This wildlife preserve in the middle of the \*Everglades swamp offers 2.5 miles (4 km) of winding boardwalk \*elevated above the swamp, above wetlands and \*marshes, through pine forests and old-growth \*cypress. Corkscrew Sanctuary is home to hundreds of \*alligators, deer, \*otters, turtles and various kinds of \*wading birds, as well as other varieties of exotic birds.

This wonderful \*refuge for wildlife probably would not exist today had it not been for a dark history of beautiful birds being killed almost to \*extinction for their feathers.

Thousands of notable women in the late 19th and early 20th centuries demanded fancy hats \*laden with colorful feathers and \*plumes. The fashion industry killed up to 5 million birds a year to satisfy the demand. Wading birds had the most unusual feathers, so in south Florida, whole colonies of \*snowy egrets, \*white ibises and \*great blue herons were destroyed regularly for hats.

Feathers were sold for as much as \$30 an ounce – twice the value of gold at the time.

But concerned citizens began to band together to try to get help from the government to save the birds. They hired guards to protect the swamp birds, but it was dangerous work and three guards were killed in the line of duty. Some others disappeared and were never heard from again.

\*Conservationists began to rally and eventually the high-society women who bought the hats got the message. Hundreds of influential women in New York and Boston joined a movement to stop the killing of birds. But the struggle was enormous as many other women refused to give up their feathers.

In 1903 and 1908, laws were passed protecting birds in some parts of the nation.

Pressure kept mounting and finally in 1918 a federal law was passed making it a crime to harm, sell or transport any \*migratory bird. That put an end to the bird and feather hat \*hysteria.

Over the years, the federal law was expanded and enhanced to protect birds from wind turbines and \*cellphone towers.

(Beverly A. Jackson, 'How fashion killed birds', *the japan times alpha*, September 6, 2019  
を一部改変)

\*Audubon's Corkscrew Swamp Sanctuary : オーデュボン・コーカスクリュー湿地自然保護区

\*Everglades : エバーグレーズ (地名)

\*elevated : (周囲よりも) 高くした

\*marsh : 湿地帯

\*cypress : イトスギ

\*alligator : アリゲーター (ワニの一種)

\*otter : カワウソ

\*wading bird : 渉禽 (水辺を歩き回ってえさをとる鳥類)

\*refuge : 避難所、保護区

\*extinction : 絶滅

\*laden with : ~をたくさん付けた

\*plume : 羽飾り

\*snowy egret : ユキコサギ

\*white ibis : シロトキ

\*great blue heron : オオアオサギ

\*conservationist : 自然保護論者、自然保護活動家

\*migratory bird : 渡り鳥

\*hysteria : 興奮状態、狂騒

\*cellphone : 携帯電話

【問1】本文の内容を300字以内の日本語で要約しなさい（句読点も字数に含む）。

【問2】本文の内容を踏まえ、自然環境保護のあり方について、本文中の事例以外の具体的な事例を挙げながら、あなた自身の意見を400字以内の日本語で書きなさい（句読点も字数に含む）。

II (選択) 次の文章を読み、問い合わせに答えなさい。

私たちは、道端に倒れている病人や、ひどく困っている誰かを目にした場合、しばしばかなりの①コストがかかる援助を行います。こうした援助行動では、相手は血縁者でも知人でもなくその場限りの関係なので、親切にしてもしなくとも、将来その相手から直接的な見返りを受ける可能性はほぼありません。自分が困っているときに同じ相手から助けてもらう可能性（互恵的利他主義）が成立する余地はほとんどないのです。

(中略)

それでも、私たちは実際、しばしば誰かを助けます。このように、いつ誰からともなく、回り回って援助が返ってくる（かもしれない）かたちでの「二者に閉じない助け合い」は、進化生物学で、間接互恵性（*indirect reciprocity*）と呼ばれます。間接互恵性は、チンパンジーやボノボなどのほかの霊長類を含め、ヒト以外の動物ではほとんど観察されていません。

では、ヒトに特徴的と考えられる「間接的な助け合い行動」は、社会の中でどのような仕組みに支えられているのでしょうか。これらは罰や制裁があるから生まれるのでしょうか。親切にしないと罰せられる（かもしれない）から親切にする？ なんだか変な気がします。現在までのところ、その仕組みには、評判（*reputation*）の働きがあると考えられています。

(中略)

「聞いて聞いて、あのAさんが実はね……」など、私たちは人のうわさ話や評判を話題にすることが大好きな動物のようです。霊長類学者のダンバーは、大学のカフェテリアや病院の待合室など人が集まる場所での自然な会話を分析し、会話のほとんどが「今ここにいない誰か」についてのゴシップ<sup>注1)</sup>であることを示しました。直接の知り合いでない芸能人や重要人物の私生活に対して、「ふつうの人々」が熱心な興味を示すことは、ワイドショーや週刊誌の記事を見ても明らかです（狩猟採集民の社会でもゴシップはとても熱心に行われます）。

ダンバーによれば、ゴシップはサルの群れにおける毛づくろいと同じ役割を果たすと言います。サルの毛づくろいは、友好な関係を保ったり、壊れかかった社会関係を修復したりするのに役立つことが分かっています。ヒトの場合には、毛づくろいの代わりに言葉を使って「今ここにいない誰か」についてのうわさ話をすることが、互いのきずなや連帯感を強めるという主張です。

しかし、ゴシップの働きはそれだけではありません。ゴシップの一つ一つの情報は面白おかしいいい加減なものであっても、それが積み重なると、ある人の「人間性」を露わにするケースがしばしば生まれ、それがその人の「評判」となります。「評判の良い人」とされるか「評判の悪い人」とされるのかは、その人の利他性によるところが大きいでしょう。なかでも、相手からの直接の見返りが期待できないような場面において、相手に親切にするか、あるいは手のひらを返したように冷淡になるかは、その人のもっている「本当の利他性」の程度をよく表す指標と言えるでしょう。とくに当の本人が計算せずに表出した行動、たとえば、誰も見ていないと思ってやった行動は、情報価が高いと言えます。

私たちは、ゴシップを通じていろいろな他者の本当の利他性についての情報を得ることで、直接知らない相手であっても、評判の良い人とは付き合いたいと思う一方で、評判の悪い人はなるべく避けようとなります。ゴシップなどの評判メカニズムは、どの相手とどう付き合う

べきかをめぐる「対人マーケット」において、重要な選別の機能を果たしているのです。付き合う相手として他の人から選ばれることが、集団での生活を進化的に選択したヒトにとって根本的な適応の要件となるのは、言うまでもありません。このような評判のメカニズムは、ツイッターやラインなどの情報サービスが普及した今日の社会で、とくに大きな影響を發揮します。

(中略)

近年の研究では、間接互恵性で見られるような自発的な親切行為や援助行動は、このような言語を介した評判のメカニズムを基盤として、ヒトの心に定着したのではないかと考えられています。

もちろん、対人マーケットの仕組みを読み切ったずる賢い偽善家は、意図的に「見返りのない親切行為」に従事し、いろいろなところで自己宣伝に努めるかもしれません。しかし、そのような冷徹な合理計算は、時に計算外のボロを出す可能性があります。一方で、「情に流される人」の場合にはそもそも計算をしないので、困っている人に対しても援助の手を差し伸べます。

こう考えると、「自然な感情に流され、ついつい可哀想だと思って行動してしまう人情家」は、短期的にいろいろと損をしても、長期的には社会の中で人に愛されて、つまり「選ばれて」いくのかもしれません（古い映画ですが、故・渥美清の演じた「寅さん」のことを想起します）。

こうして私たちは、人情家を好み、また人情家であろうとするように心を適応させてきたわけですが、固定した小集団で暮らしていた時代と異なり、近代化・産業化の歴史は、市場メカニズムの拡大を通して、会社・組織などの自由な対人マーケットを広げました。そこで選ばれるために、「優秀な人」、「能力の高い人」であろうとし、その競争はますます激化しています。これは②歴史・文化時間における新たな適応であると言えるかもしれません、その一方で大規模で厳しい競争は、進化時間<sup>注2)</sup>仕様の私たちの心にストレスをもたらします。そんななか、「情に流される人情家」のことを見聞きして私たちがホッとして温かい気持ちがする背景には、計算をしない相手と付き合いたいという、感情に駆動されたデマンドがあるのかもしれません。

（亀田達也『モラルの起源——実験社会科学からの問い』岩波書店、2017、一部改変）

注1) 世間に伝えられる興味本位のうわさ話のこと。

注2) 筆者はヒトの適応をめぐり、生物が進化するのに必要な、かなり長い時間をかけて起くるスケールの時間のことを「進化時間」と呼んでいる。たとえばヒトの場合、10万年以上にわたる長い時間とされている。

**【問 1】** 下線①「コストがかかる援助」とあるが、人はなぜコストがかかる援助を行うのか。  
「間接互恵性」「評判のメカニズム」「対人マーケット」「本当の利他性」「情報価」  
という 5 つの言葉を用いながら、220 字以内で述べなさい（句読点も字数に含む）。

**【問 2】** 下線②「歴史・文化時間における新たな適応」とは何を指しているか、本文の言葉を  
用いて 120 字以内で説明しなさい（句読点も字数に含む）。

**【問 3】** あなたが見聞した「ゴシップ」にまつわるエピソードを具体的に述べたうえで、筆者  
のいう「対人マーケット」についてのあなたの考えを、本文も参考に 400 字以内で  
説明しなさい（句読点も字数に含む）。

### III (選択) 次の文章を読み、問い合わせに答えなさい。

我が国では、2000年代以降、インターネットの利用者が増加した。さらに、2010年代のスマートフォンの急速な普及により、その使われ方も多様化している。まず、我が国でのインターネットの普及状況及び利用状況を利用者の年代別に概観する。総務省が実施している「平成29年通信利用動向調査」の結果を見ると、①個人がインターネットに接続する際に使用する端末については、13歳から49歳までと、60代以上ではその種類が異なっていることがわかった（図1）。

インターネットへの接続端末は異なるものの、インターネットに接続することで利用できるソーシャルメディア<sup>注1</sup>によって、利用者は様々なメリットを感じている。ソーシャルメディアの利用状況を国際比較するため、総務省では2018年2月から3月にかけて、ソーシャルメディアとして、Facebook、Twitter、LINE、その他のソーシャルネットワーキングサービス（SNS）<sup>注2</sup>、その他のオンラインチャット、ブログ、情報・レビュー共有サイト、掲示板、メーリングリスト、オンラインゲームを挙げて、インターネットによる国際調査（日本、アメリカ、イギリス、ドイツ）を行った（総務省「ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究」）。

調査結果によると、我が国のソーシャルメディア利用者のうち、ソーシャルメディアを利用して良かったと思ったことが1つでもあるとしたのは73.1%であった。ソーシャルメディアを利用して良かったことをたずねると（図2）、ソーシャルメディアは必ずしも個人間のつながりの創出や維持のためだけに利用されているわけではなく、情報を入手して、それを消費する場として活用することにメリットを見出していた。また、この傾向は、アメリカ、イギリス、ドイツでの調査結果と比較するとより明らかになることがわかった。

我が国で、ソーシャルメディア利用のメリットとして、他者とのつながりよりも、興味のある情報の収集がより認識されていることは、自分の興味のある情報のみにアクセスする利用者が多いことを示唆している。ただし、ソーシャルメディアで自分の興味のある情報のみにアクセスする場合、興味・関心を狭めることにもなりかねず、それは逆にコミュニケーションを狭めることにもなりかねないことは留意しなければならない。自分と異なる他者とのコミュニケーションは、良いアイディアやイノベーションが生まれるきっかけとなるため、ソーシャルメディアを通じて自分と異なる他者とのつながりを得ることの重要性は今後ますます高まっていくと考えられる。

ソーシャルメディアの利用により、個人が容易に他人とコミュニケーションを取り合うことができるようになったことで、トラブルが生じ、人間関係を悪化させる可能性もあることに留意が必要である。ソーシャルメディアを利用することで他者との間に摩擦が生じることは決してまれな事ではない。我が国において、ソーシャルメディアで情報発信を行う利用者のうち、何かしらのトラブルを経験した人々の割合は、アメリカ、イギリス、ドイツと比較すると低い割合であった（図3）。

ソーシャルメディアの情報発信者が経験したトラブルの内容を見ると（図4）、各国とも、

最も経験者の割合が高かったのは、「自分の発言が自分の意図とは異なる意味で他人に受け取られてしまった（誤解）」であった。また上位 3 つのトラブルは、いずれも発信者自身の書き込みによるコミュニケーションのすれ違いにより生じたトラブルであった。これらは、互いの顔の見えない、匿名の場合は相手の背景が見えないインターネット特有のコミュニケーションの難しさが原因となっているといえよう。

さらに深刻な問題としては、ソーシャルメディアの利用によって、さまざまな悪意を持つユーザーとのつながりを得てしまい、犯罪などに巻き込まれる可能性があることが挙げられる。特に、SNS は不特定多数の個人によるコミュニケーションを可能にするサービスであるため、その可能性がより高まる。一例として、警察庁「平成 29 年における SNS 等に起因する被害児童<sup>注3</sup>の現状と対策について」によると、SNS が起因となった犯罪に巻き込まれた児童の数は 2008 年から 2017 年までの間に増加傾向にあり、2017 年は 1,813 人で過去最高を記録した。

以上から、日本では、ソーシャルメディア利用のメリットとして、個人間のつながりを創出・強化するよりも情報収集などの役割のほうがより認識されていることが分かった。さらに、ソーシャルメディアの利用においては少なからずコミュニケーションのすれ違いが発生してしまうこと、さらに悪意を持つユーザーとの直接のつながりを得てしまう可能性があることが、留意すべきインターネット上のコミュニケーションにおける課題である。

（本文は、総務省（2018）『平成 30 年版 情報通信白書』より抜粋、改変、加筆した。図 2～4 は、総務省（2018）『ICT によるインクルージョンの実現に関する調査研究報告書』のデータから出題者が作成した。）

注 1：ブログ、ソーシャルネットワーキングサービス（SNS）、動画共有サイトなど、利用者が情報を発信し、形成していくメディアを指す。

注 2：インターネット上の交流を通じて社会的ネットワーク（ソーシャルネットワーク）を構築するサービスのことである。Facebook や Twitter、LINE などが代表的である。

注 3：本資料における「児童」は 18 歳未満の者を指す。

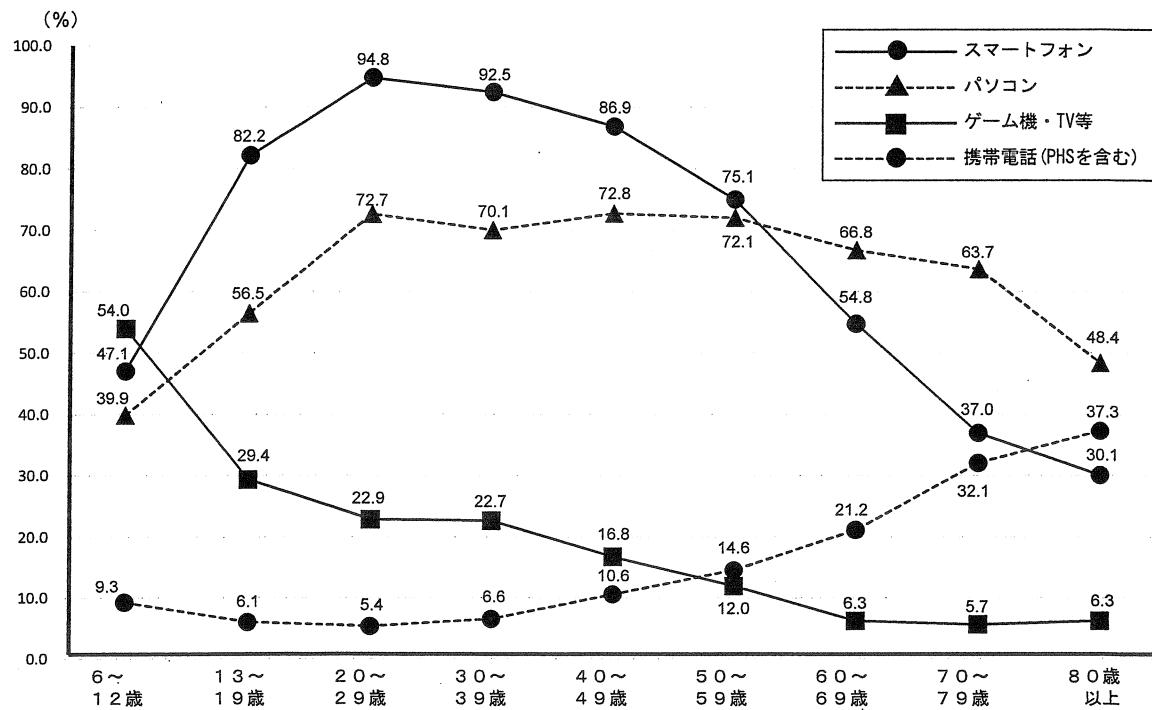


図1 日本におけるインターネット接続端末

(出典) 総務省「平成29年通信利用動向調査」(2018)

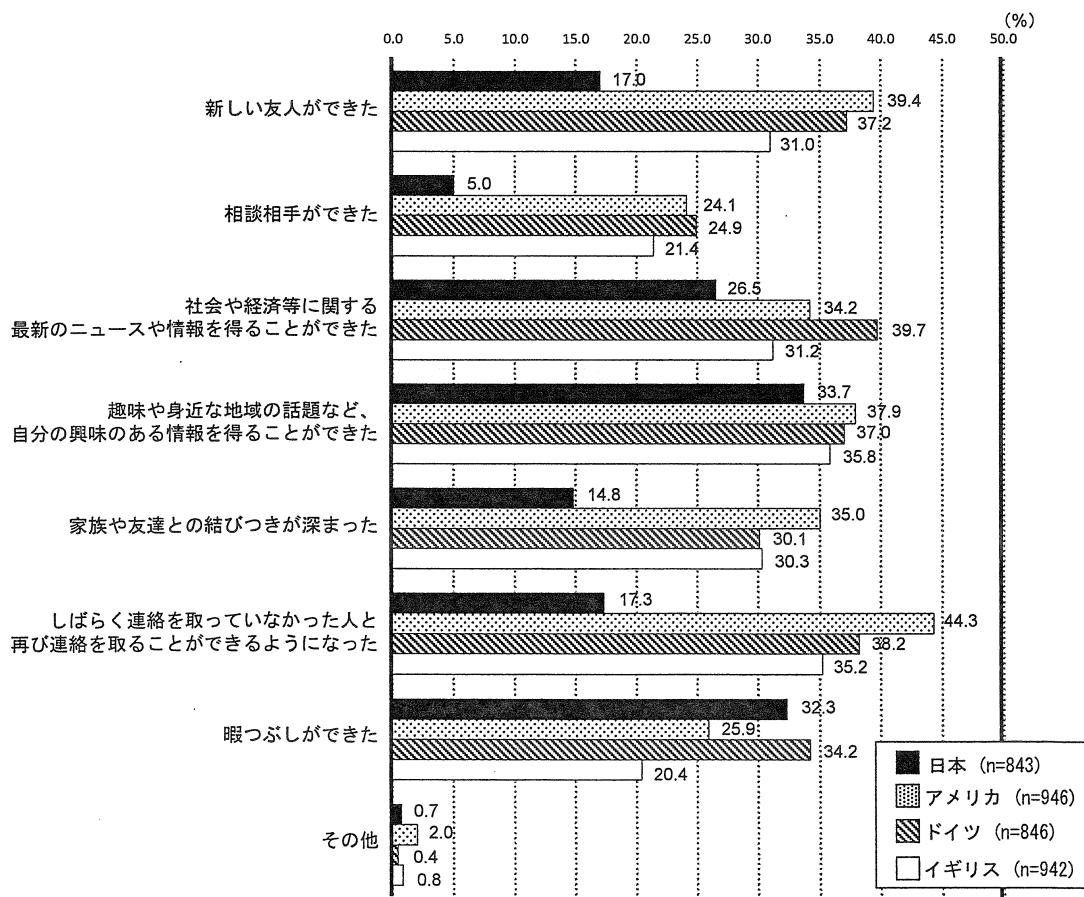


図2 ソーシャルメディアを利用して良かったこと(複数回答、国際比較)

(出典) 総務省「ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究」(2018)

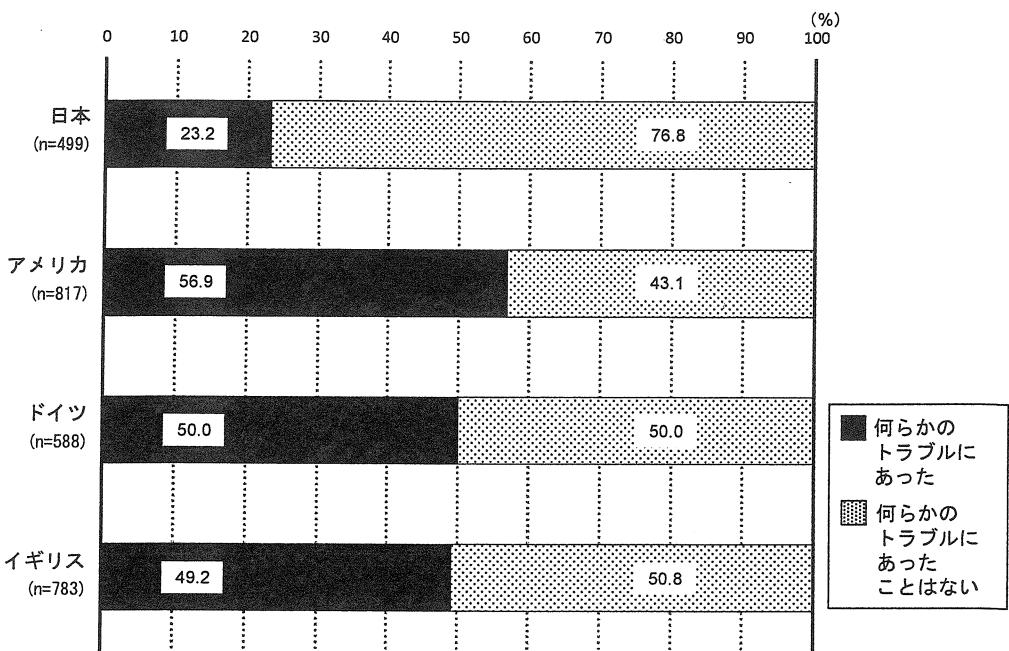


図3 ソーシャルメディアの情報発信者が何らかのトラブルを経験したか(国際比較)  
(出典) 総務省「ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究」(2018)

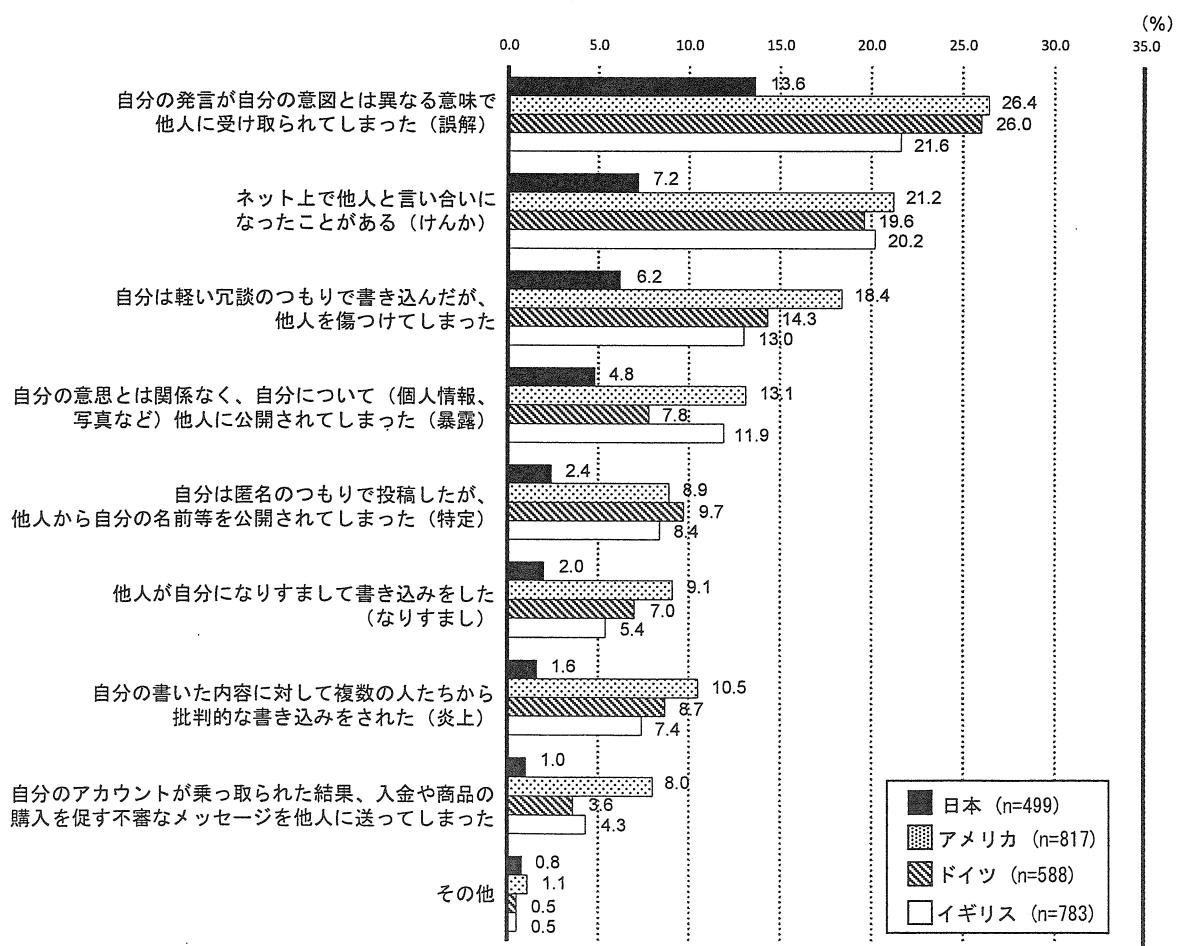


図4 ソーシャルメディアの情報発信者が経験したトラブル(複数回答、国際比較)  
(出典) 総務省「ICTによるインクルージョンの実現に関する調査研究」(2018)

**【問 1】** 下線部①「個人がインターネットに接続する際に使用する端末については、13歳から49歳までと、60代以上ではその種類が異なっている」について、それぞれについてどのような傾向があり、どのように異なっているのか。図1から読み取れることをもとに、200字以内で説明しなさい（句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は1マスに2字まで記入してもよい）。

**【問 2】** ソーシャルメディアを利用して良かったことについて、日本の結果の特徴、および、日本と諸外国との結果の違いが明らかになるように、図2から読み取れることをもとに、200字以内で説明しなさい（句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は1マスに2字まで記入してもよい）。

**【問 3】** ソーシャルメディアの情報発信者が経験したトラブルについて、図3や図4から日本の割合は諸外国と比べて低いものの、本文中の警察庁の調査結果にもあるように、特に18歳未満の者について今後増加することが予想される。18歳未満の者について、ソーシャルメディアを利用することによって、どのようなトラブルが考えられ、それに対して具体的にどのような対策が有効であるか。本文や図の結果を参考にしながら、300字以内であなたの考えを述べなさい（句読点も字数に含む。数字・アルファベット・小数点は1マスに2字まで記入してもよい）。